

令和7年度 獣害対策のための集落アンケート（集計結果の概要）

目的

被害・生息・対策等の情報を集落単位に収集することにより、県や市町における被害対策の目標設定や評価に活用する。

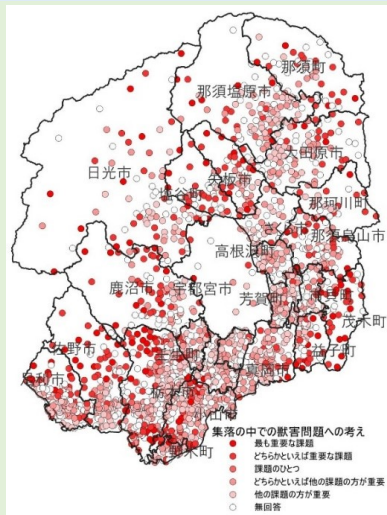
調査方法

アンケートの配布先	自治会長や農業推進委員等
配布時期・方法	令和7年11月・郵送や回覧等
配布数	3,328（回答数：2,352）
回答数	2,352（回答率：70.7%）
調査の内容	<ul style="list-style-type: none"> ○集落の状況 <ul style="list-style-type: none"> ・獣害問題の重要度 ・被害防止施設の設置状況 ○対象鳥獣毎の状況 <ul style="list-style-type: none"> 【ニホンジカ、イノシシ、ニホンザル、ツキノワグマ、ハクビシン、アライグマ、カモシカ、カラス、カモ】 ・生息（いる・いない） ・出没状況（たまに見る・よく見る） ・農業被害（ほとんどない・軽微・大きい・深刻） ・実施した対策とその効果（無・有・不明）
回答の対象期間	令和7年4月～11月までの状況

集計結果

集落内の獣害問題への考え

- ◆集落内部で獣害問題を「最も重要な課題」と考えている集落は、中山間地域を中心に広く存在しているほか、県南部の渡良瀬遊水地付近にも存在していた。
- ◆平野部には獣害問題をあまり重要としない集落が多く見られた。

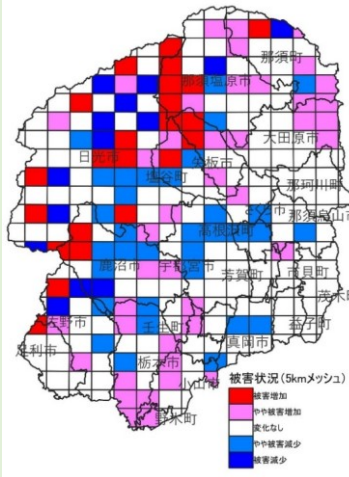


集計結果

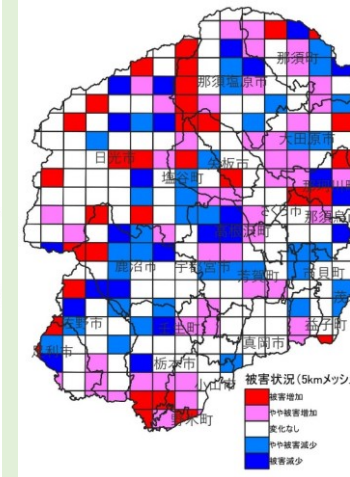
被害程度の年度比較

以下の図は集落単位のデータをメッシュごとに平均し、平成26（2014）年度の結果と比較しています。

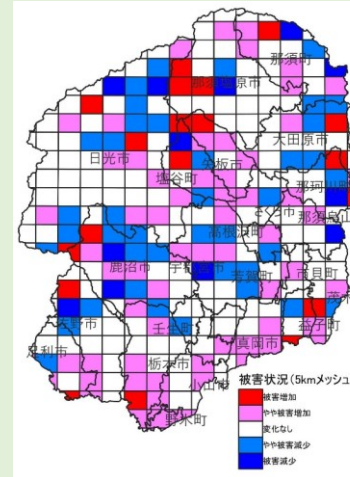
ニホンジカ



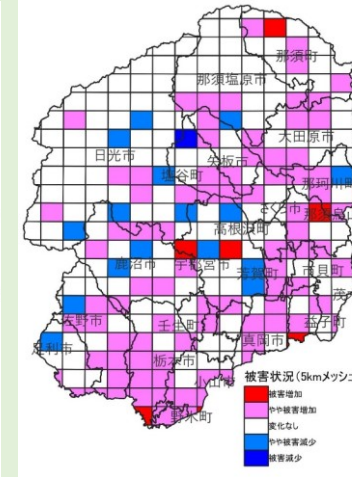
イノシシ



ハクビシン



アライグマ



- ◆ニホンジカは県西部の山間地を中心に被害。また、県北西部及び県南部に被害が増加している区域が存在していた。
- ◆イノシシは、県全域において被害が増加している区域が存在していた。

- ◆ハクビシンは県全域で被害増加傾向。
- ◆アライグマは県南部をはじめとした平野部を中心に被害増加傾向。

被害集落における獣種毎の対策の現状

- ◆令和7年度は、シカは6割、イノシシは7割ほどの集落で何らかの対策を実施。
- ◆平成26（2014）年度から令和5（2023）年度にかけて柵または捕獲による対策が増加していたが、令和5（2023）年度から令和7（2025）年度にかけてはシカ・ツキノワグマで減少、イノシシ・サル・アライグマ・ハクビシンで増加。

